

大齋懺悔式

この式は大齋始日その他主教の定める日に用いる。ただし詩五十一篇を省き、以下を嘆願の『キリストよ、我らの願いをききたまえ』につづけてもよい。
一同ひざまずき次の詩を歌いまたは唱える。

詩五十一篇

父と子と聖霊に

栄光あれ

始めにあり、今あり

世々限りなくあるなり

アーメン

司式者

主よ、あわれみたまえ

会衆

キリストよ、あわれみたまえ

司式者

主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国たまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪え。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえアーメン

司式者

主よ、しもべを救いたまえ

会衆

我ら主にたよれり

司式者

主よ、天より助けをくださいたまえ

会衆

大いなる力をもって常に我らを守りたまえ

司式者

救いの神よ、我らを助けたまえ

会衆

御栄えのために我らを救い、御名のゆえに我らの罪びとをあわれみ

たまえ

司式者

主よ、我らの祈りをききたまえ

会衆

我らの声を主の御前に至らせたまえ

司式者

我ら祈るべし

主よ、あわれみをもって我らの祈りを聞こし召し、その罪を懺悔する者をことごとく赦したまえ。願わくは罪のために良心の責めらるる者は、慈悲ふかき主より赦しをこうむりて、全く安んずることを得させたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

慈悲ふかき父、全能の神よ、主は造りたまひし物を一つも憎まず、すべての人をふかくあわれみ、罪びとの死ぬるを好まずして、その悪を離れ救われることを喜びたもう。願わくはあわれみをもつて我らのとがを赦したまえ。我らはまことに罪に悩み、その重荷に耐えがたし。父よ、我らを受け、我らを慰めたまえ。主は常にあわれみあり、ただ主のみ罪を赦したもう。慈悲ふかき主よ、我らを赦したまえ。贖いたまえるしもべを赦したまえ。願わくは土くれのとき罪びとをさばきたもうなかれ。我らはおのれの卑しきを知り、自らの罪を深く悲しめり。主よ、怒りたもうことなく、今すみやかに我らを助け、後の世に限りなく主とともにおらしめたまえ。主イエスキリストによりて聞こし召したまわんことをこいねがい奉る。アーメン

次に一同、次の祈りを用いる。

慈悲ふかき主よ、我らをかえしたまえ、我ら主に帰らん。主よ、顧みたまえ、今悲しみと祈りと断食とをもつて主に帰るしもべを顧みたまえ。主はあわれみふかく、めぐみ満ち、長忍びたもう。主は罰せらるべし者をも赦し、怒りの中にもあわれみをわすれたまわず。慈悲ふかき主よ、願わくは赦したまえ、主の民を赦したまえ。主のゆずりを滅ぶるに任せたまわなかれ。恵みに富みたまえ。主よ、大いなるあわれみをもつて我らを顧み、我らの祈りを聞こし召したまえ。御子イエスキリストのいさおによりてこいねがいたてまつる。アーメン

次に司式者は言う。

願わくは主われらを祝し、我らを守りたまわんことを。願わくは主、御顔をもつて我らを照らし、我らを恵みたまわんことを。願わくは主御顔を我らに向け、限りなく平安をあたえたまわんことを。アーメン

説教のないとき、詩式者は次の勧告を詩五十一篇または嘆願の前に用いてもよい。

兄弟よ、むかし公会には明らかに大罪を犯したる者を大祭の初めに当たり、会衆の前にて懲らしむるならいあり。これ、この世にて罰せらるるとも、主の日に救われんため、また他人にも戒めとなりて罪を犯すことを恐れしめんためにして、罪に対する神の大いなる怒りと、悔い改めざる者きたるべきさばきを思い、罪と怠りとを嘆き、行ないを改むることを決心し、神のあわれみを願うためなり。

今や木の根におのは置かる、ゆえにすべて良き実を結ばざる気は切られて火に投げ入られる。主の日のきたるはぬすびとのよるきたるがごとし、人々平和無事なりと思ふとき滅びたちまちきたらん、主言いたもう、「その時かれら我を呼ばん、

されど我こたえじ。ひたすら我を求めん、されど我に会わじ。彼ら知識を憎み、主をおそるる事を喜ばず、わが勧めに従わず、すべてわが懲らしめを卑しめたるによりてなり」と。門を閉じて後たたくは遅れたり、さばきるときあわれみを願うはおそし。その時かれらの罪を正しく定めたもう主は、いと恐るべき声にて言いたまわん、「のろわれたる者よ、我を離れて悪魔とその使いらのために備えられたる消えざる火に入れ」と。

ゆえに兄弟よ、救いの日の過ぎざるうちに慎むべし、夜きたらば、たれも、わざをなすことあたわず。されば光あるうちに光を信じ、光の子のごとく歩むべし。神の恵みをなみするなかれ。神は大いなるあわれみをもって我らを悔い改めに導き、また真心をもって帰る者の罪を赦すことを約したまえり。我ら罪を犯したれども、我らをとりなす義なるイエス・キリスト父のまえにあり、彼は我らの罪のために、なだめの供え物なり。彼は我らのがのため傷つけられ、我らの不義のために打たれたまえり。ゆえにあわれみ深き主に帰るべし。必ず我らを受け、我らの罪を赦したもうことを疑うなかれ。常に主にならいてへりくだり、耐え忍び、愛する心をいただき、聖霊の導きに従い、主の栄光をあらわし、感謝して主に仕うることを努むべし。

願わくは大いなるあわれみによりて、我らを御国に至らせたまわんことを
アー
メン